『西洋の書物工房』　読書会　第１６回

2016.01.21

朗読箇所：　第5章　モロッコ革を求めて

　　　　　　　　　　　　　２. フランスの山羊革

～革製本の最も盛んな国フランスの製本事情を少し探ります～

・工芸製本ルリユール(relieur)とは・・・re「もう一度～する / ～し直す」 + lier「(糸で)綴じる」

・製本の学びの場、職人の育成、就労のバックアップ・・・国家試験と製本組合の存在

・「仮綴じ本」の存在は出版と製本の歴史から

・ルリユールでよく使われる革

・革染色の現場の様子　モロッコより

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

❖　参考文献

・季刊みづゑ　934号　1985.3刊　p104-117

「ヨーロッパ伝統工芸職人の世界-5- : ルリユール(フランス工芸製本) / 貴田庄著」

・早稲田大学図書館紀要　28号　1987.12刊　p1-36

「フランス工芸製本の技術と歴史 / 松下真也著」

・西南学院大学文学部外国語学科フランス語専攻研究旅行Webページ

　2012年研究旅行

「物質としての書物 : フランスにおけるルリユール文化 / 川邉 季織著」

＜http://www.seinan-gu.ac.jp/gp/french\_trip/2012/2572/＞（2016.1.20時点）

・モロッコの革染色の現場写真より

幻想の国北アフリカ・モロッコへの旅　フェス技と匠（皮なめし）Webページ

　＜http://eritokyo.jp/independent/column/morocco-fez4.html＞（2016.1.20時点）等

担当（永田千晃）